

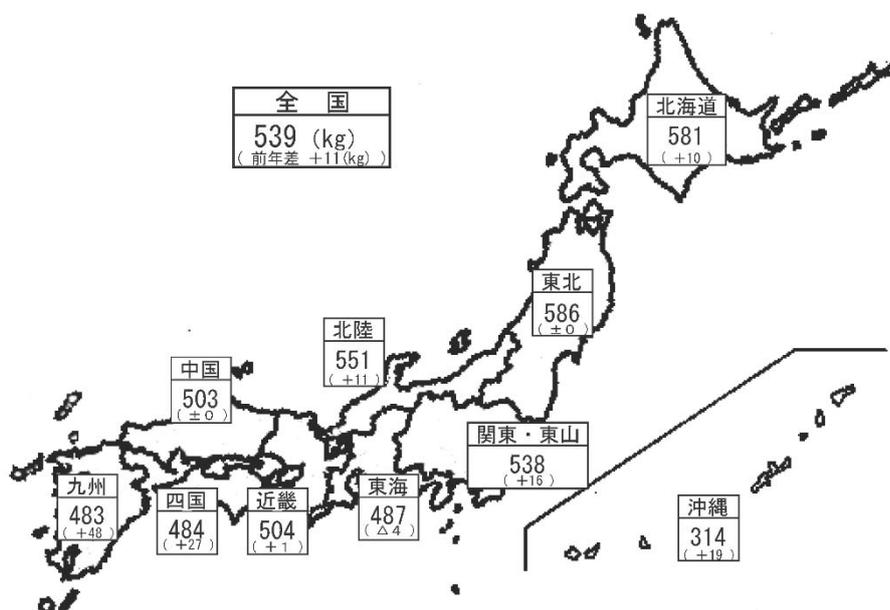
令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

－ 主食用作付見込面積は136万6,000ha、10a当たり予想収量は539kgの見込み －

【調査結果の概要】

- 1 令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は157万5,000haで、前年産に比べ9,000haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は136万6,000haで、前年産に比べ1万3,000haの減少が見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、7月の低温、日照不足等の影響がみられる地域がある一方で、北海道、東北及び北陸においては、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していると見込まれることから、全国の10a当たり予想収量は539kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は734万6,000tで、前年産に比べ8万5,000tの増加が見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月15日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月18日までの申請を反映したもの）を除いた面積（見込み）である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考		
	子実用				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成12年産	1,768,000	1,763,000	537	9,472,000	104
13	1,711,000	1,700,000	532	9,048,000	103
14	1,693,000	1,683,000	527	8,876,000	101
15	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000	90
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,600,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,592,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元 2 (見込み)	1,584,000	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
	1,575,000	..	539	..	1,366,000	7,346,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

6 「..」は、未発表であることを示している。

【調査結果】

1 令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は157万5,000haで、前年産に比べ9,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は136万6,000haで、前年産に比べ1万3,000haの減少が見込まれる。

2 9月15日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、北海道、東北及び北陸においては、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していることを見込まれることから、北海道は581kg（前年産に比べ10kg増加）、東北は586kg（同値）、北陸は551kg（同11kg増加）が見込まれる。

一方、7月の低温、日照不足の影響により、全もみ数が平年以下の地域があることに加え、一部で台風やトビイロウンカ等の影響が見られる地域があることから、関東・東山は538kg（前年産に比べ16kg増加）、東海は487kg（同4kg減少）、近畿は504kg（同1kg増加）、中国は503kg（同値）、四国は484kg（同27kg増加）、九州は483kg（同48kg増加）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は539kg（前年産に比べ11kg増加）が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は734万6,000t（前年産に比べ8万5,000t増加）が見込まれる。

表 令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量（全国農業地域別）

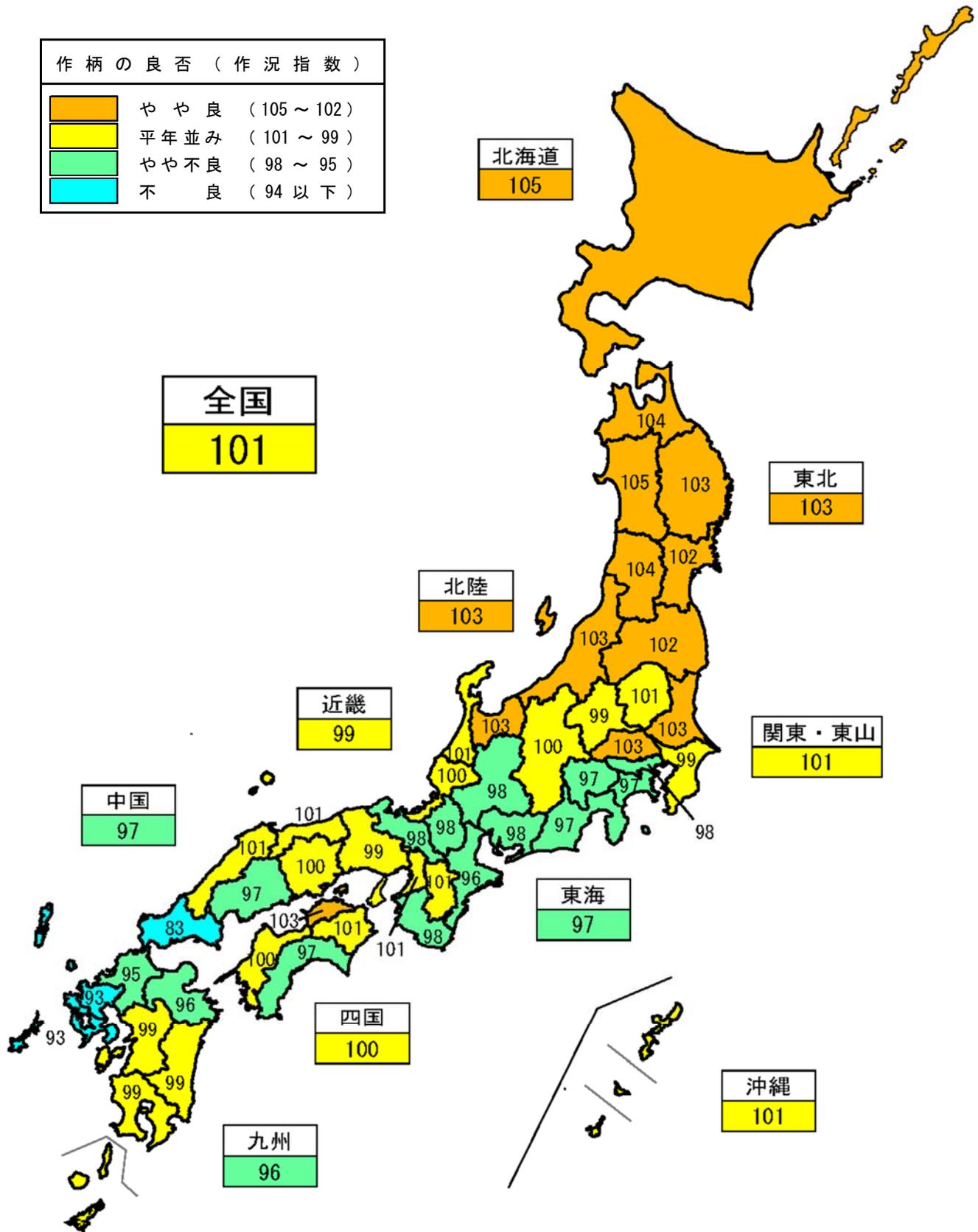
全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		参 考	
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	前年産との比較 対 差	主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③=①×②
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
全 国	1,575,000	△ 9,000	99	539	11	1,366,000	7,346,000
北 海 道	104,700	△ 900	99	581	10	95,300	553,700
東 北	411,600	△ 900	100	586	0	342,100	2,001,000
北 陸	212,300	△ 500	100	551	11	185,900	1,023,000
関 東・東 山	296,100	△ 1,500	99	538	16	255,800	1,376,000
東 海	99,600	△ 700	99	487	△ 4	89,800	438,200
近 畿	104,100	△ 1,100	99	504	1	97,600	491,900
中 国	106,900	△ 1,100	99	503	0	98,200	494,500
四 国	49,900	△ 900	98	484	27	46,900	226,400
九 州	189,700	△ 1,400	99	483	48	153,200	739,200
沖 縄	653	△ 24	96	314	19	630	1,980

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月15日現在）



注：1 作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 令和2年産水稻の作付面積、10a 当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 6
- 2 令和2年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 8

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 令和2年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			
	実 数	前年産との比較			最 も 大 きい割 合の目幅 ②	10a当たり 予想収量 ③	10a当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④
		対 差	対 比					
	ha	ha	%	kg		kg	kg	
全 国 (1)	1,575,000	△ 9,000	99	539	...	517	512	101
北 海 道 (2)	104,700	△ 900	99	581	1.90	551	524	105
青 森 (3)	50,300	△ 100	100	623	1.90	595	570	104
岩 手 (4)	55,700	△ 200	100	558	1.90	528	514	103
宮 城 (5)	75,300	0	100	552	1.90	527	515	102
秋 田 (6)	90,300	△ 200	100	601	1.90	566	541	105
山 形 (7)	68,800	△ 100	100	621	1.90	590	568	104
福 島 (8)	71,200	△ 200	100	564	1.85	546	533	102
茨 城 (9)	76,200	△ 400	99	532	1.85	520	505	103
栃 木 (10)	69,100	△ 100	100	538	1.85	519	515	101
群 馬 (11)	17,000	△ 100	99	495	1.80	479	482	99
埼 玉 (12)	33,200	△ 200	99	502	1.80	490	477	103
千 葉 (13)	60,200	△ 600	99	537	1.80	528	534	99
東 京 (14)	124	△ 5	96	405	1.80	394	403	98
神 奈 川 (15)	3,000	△ 50	98	477	1.80	464	477	97
新 潟 (16)	121,800	△ 100	100	561	1.85	544	527	103
富 山 (17)	38,900	0	100	554	1.90	535	519	103
石 川 (18)	25,400	△ 200	99	530	1.85	516	509	101
福 井 (19)	26,200	△ 200	99	519	1.90	486	486	100
山 梨 (20)	4,910	0	100	532	1.80	517	532	97
長 野 (21)	32,200	△ 200	99	617	1.85	596	598	100
岐 阜 (22)	25,000	△ 100	100	477	1.80	467	476	98
静 岡 (23)	16,800	△ 300	98	503	1.80	494	511	97
愛 知 (24)	28,900	△ 100	100	495	1.85	479	491	98
三 重 (25)	28,900	△ 300	99	479	1.85	459	479	96
滋 賀 (26)	32,400	△ 500	98	509	1.90	474	483	98
京 都 (27)	14,500	△ 100	99	503	1.85	486	494	98
大 阪 (28)	4,710	△ 150	97	499	1.80	483	479	101
兵 庫 (29)	37,600	△ 300	99	499	1.85	474	477	99
奈 良 (30)	8,540	△ 20	100	520	1.80	507	500	101
和 歌 山 (31)	6,250	△ 110	98	485	1.80	474	486	98
鳥 取 (32)	13,700	△ 100	99	520	1.85	501	495	101
島 根 (33)	18,400	△ 200	99	522	1.90	488	483	101
岡 山 (34)	31,200	△ 300	99	526	1.85	501	501	100
広 島 (35)	23,400	△ 200	99	510	1.85	492	508	97
山 口 (36)	20,100	△ 400	98	427	1.85	401	481	83
徳 島 (37)	11,700	△ 300	98	476	1.80	465	462	101
早期栽培 (38)	4,680	△ 50	99	453	1.80	443	453	98
普通栽培 (39)	7,050	△ 200	97	490	1.80	478	467	102
香 川 (40)	11,900	△ 400	97	511	1.80	492	478	103
愛 媛 (41)	13,800	△ 200	99	497	1.85	469	469	100
高 知 (42)	12,400	△ 100	99	447	1.80	435	447	97
早期栽培 (43)	7,180	△ 60	99	454	1.80	442	472	94
普通栽培 (44)	5,250	△ 40	99	438	1.80	427	415	103
福 岡 (45)	38,300	△ 200	99	471	1.85	436	459	95
佐 賀 (46)	26,000	△ 100	100	484	1.85	455	488	93
長 崎 (47)	12,400	△ 300	98	450	1.80	433	464	93
熊 本 (48)	42,300	0	100	505	1.85	473	480	99
大 分 (49)	24,100	△ 300	99	479	1.80	458	477	96
宮 崎 (50)	23,100	△ 100	100	490	1.80	475	482	99
早期栽培 (51)	8,540	△ 160	98	469	1.80	459	470	98
普通栽培 (52)	14,600	100	101	503	1.80	485	490	99
鹿 児 島 (53)	23,500	△ 400	98	480	1.80	466	470	99
早期栽培 (54)	6,590	△ 10	100	443	1.80	431	443	97
普通栽培 (55)	16,900	△ 400	98	492	1.80	477	478	100
沖 縄 (56)	653	△ 24	96	314	1.80	303	299	101
第一期稲 (57)	479	△ 27	95	367	1.80	359	351	102
第二期稲 (58)	174	3	102	...	1.80	...	146	...

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 ③10a当たり予想収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

参 考		作柄概況 (平年比較)				
⑥ 主食用作付見込面積 ha	⑦=①×⑥ 予想収穫量 (主食用) t	穂数の多少	1 穂 当 た り の も み 数 の 少	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
1,366,000	7,346,000	…	…	…	…	(1)
95,300	553,700	やや少ない	多 い	やや多い	や や 良	(2)
38,300	238,600	やや多い	平年並み	多 い	やや不良	(3)
48,200	269,000	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(4)
64,500	356,000	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(5)
75,300	452,600	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(6)
56,500	350,900	多 い	平年並み	多 い	平年並み	(7)
59,200	333,900	やや多い	やや多い	やや多い	平年並み	(8)
65,500	348,500	やや少ない	平年並み	平年並み	や や 良	(9)
54,900	295,400	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(10)
13,600	67,300	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(11)
30,600	153,600	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	(12)
52,500	281,900	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(13)
124	502	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(14)
2,990	14,300	少 ない	やや多い	少 ない	や や 良	(15)
106,700	598,600	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良	(16)
33,200	183,900	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(17)
22,600	119,800	平年並み	平年並み	平年並み	や や 良	(18)
23,300	120,900	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	(19)
4,800	25,500	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(20)
30,700	189,400	やや少ない	多 い	平年並み	やや不良	(21)
21,400	102,100	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(22)
15,400	77,500	少 ない	多 い	やや多い	やや不良	(23)
26,400	130,700	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(24)
26,700	127,900	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(25)
29,700	151,200	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(26)
13,800	69,400	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(27)
4,700	23,500	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(28)
34,800	173,700	少 ない	やや多い	平年並み	平年並み	(29)
8,430	43,800	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(30)
6,250	30,300	少 ない	やや多い	やや少ない	や や 良	(31)
12,800	66,600	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(32)
16,800	87,700	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(33)
28,900	152,000	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(34)
22,000	112,200	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(35)
17,800	76,000	やや少ない	やや多い	平年並み	不 良	(36)
10,700	50,900	…	…	…	…	(37)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	や や 良	(38)
…	…	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(39)
11,600	59,300	少 ない	多 い	平年並み	や や 良	(40)
13,300	66,100	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(41)
11,200	50,100	…	…	…	…	(42)
…	…	やや少ない	やや多い	やや多い	不 良	(43)
…	…	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(44)
34,400	162,000	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(45)
23,400	113,300	少 ない	やや多い	少 ない	平年並み	(46)
11,000	49,500	少 ない	やや多い	少 ない	やや不良	(47)
32,300	163,100	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良	(48)
20,000	95,800	少 ない	やや多い	やや少ない	やや不良	(49)
14,300	70,100	…	…	…	…	(50)
…	…	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(51)
…	…	少 ない	多 い	やや多い	やや不良	(52)
17,800	85,400	…	…	…	…	(53)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(54)
…	…	少 ない	多 い	平年並み	平年並み	(55)
630	1,980	…	…	…	…	(56)
…	…	平年並み	平年並み	やや多い	や や 良	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

4 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月18日までの申請を反映したもの）を除いた面積（見込み）である。

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県における早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県における県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 令和2年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都道府県	出穂期								刈取済面積割合
	始期		最盛期		終期		最盛期の比較		
	対前年差		対前年差		対前年差		対前年差		
	月	日	月	日	月	日			%
全 国	27
北海道	7.	25	7.	31	8.	7	1日早	2日遅	3
青森	8.	2	8.	5	8.	10	並み	1日遅	2
岩手	8.	2	8.	6	8.	10	1日遅	2日遅	3
宮城	8.	1	8.	6	8.	13	5日遅	4日遅	1
秋田	7.	30	8.	3	8.	9	1日早	1日遅	0
山形	8.	2	8.	6	8.	14	1日遅	2日遅	2
福島	8.	3	8.	9	8.	17	1日遅	並み	0
茨城	7.	22	8.	2	8.	14	4日遅	1日遅	62
栃木	7.	29	8.	4	8.	18	5日遅	2日遅	26
群馬	8.	6	8.	21	9.	1	2日遅	並み	3
埼玉	7.	26	8.	12	8.	30	2日遅	並み	31
千葉	7.	10	7.	21	8.	3	2日早	5日早	91
東京都	8.	1	8.	14	8.	25	並み	1日早	2
神奈川県	8.	1	8.	11	8.	20	1日早	2日早	13
新潟	7.	25	8.	6	8.	15	1日遅	3日遅	40
富山	7.	12	8.	5	8.	15	4日遅	4日遅	49
石川	7.	17	7.	30	8.	6	1日遅	1日遅	71
福井	7.	15	8.	4	8.	15	4日遅	2日遅	77
山梨	8.	6	8.	11	9.	1	3日遅	1日遅	8
長野	8.	1	8.	9	8.	17	3日遅	1日遅	7
岐阜	7.	21	8.	21	9.	2	1日遅	並み	26
静岡県	7.	20	8.	7	8.	28	並み	2日早	41
愛知県	7.	26	8.	20	9.	6	2日遅	1日遅	29
三重	7.	14	7.	22	8.	9	1日早	5日早	87
滋賀	7.	27	8.	2	8.	18	2日遅	2日遅	49
京都	7.	23	8.	2	8.	16	並み	1日遅	42
大阪	8.	2	8.	22	8.	30	1日早	並み	8
兵庫	7.	30	8.	13	8.	30	2日遅	2日遅	35
奈良	7.	31	8.	23	8.	29	1日早	並み	16
和歌山	7.	19	8.	6	8.	24	1日早	2日早	45
鳥取	7.	29	8.	9	8.	25	3日遅	1日遅	17
島根	7.	21	8.	3	8.	23	4日遅	2日遅	49
岡山	7.	31	8.	21	9.	5	1日遅	並み	22
広島	7.	24	8.	9	8.	26	2日遅	1日遅	37
山口	7.	30	8.	12	8.	27	3日遅	3日遅	45
徳島	7.	6	7.	13	7.	27	1日早	3日早	100
香川	7.	18	7.	31	8.	28	並み	並み	71
愛媛	7.	20	8.	20	8.	30	1日早	2日早	40
高知	7.	17	8.	13	9.	3	並み	1日早	44
福岡	6.	23	7.	2	7.	19	並み	1日早	100
佐賀	8.	10	8.	17	8.	30	1日早	1日早	5
長崎	8.	2	8.	23	9.	3	並み	並み	22
熊本	7.	24	8.	30	9.	12	2日遅	並み	8
大分	7.	17	8.	26	9.	4	並み	1日早	13
宮崎	7.	14	8.	22	9.	6	1日早	1日早	9
鹿児島	7.	29	8.	24	9.	3	2日早	4日早	4
沖縄	6.	19	6.	24	6.	30	並み	並み	100
	8.	16	8.	23	9.	3	2日早	2日早	0
鹿兒島	6.	16	6.	26	7.	15	並み	並み	100
	8.	18	8.	24	9.	5	2日早	4日早	0
沖繩	4.	22	5.	21	6.	14	1日早	2日遅	100

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 作柄概況調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

標本単位区：39,411単位区

イ 作柄概況調査

作況標本筆：9,902筆、作況基準筆：300筆

3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和2年7月15日現在

(2) 作柄概況調査：令和2年9月15日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

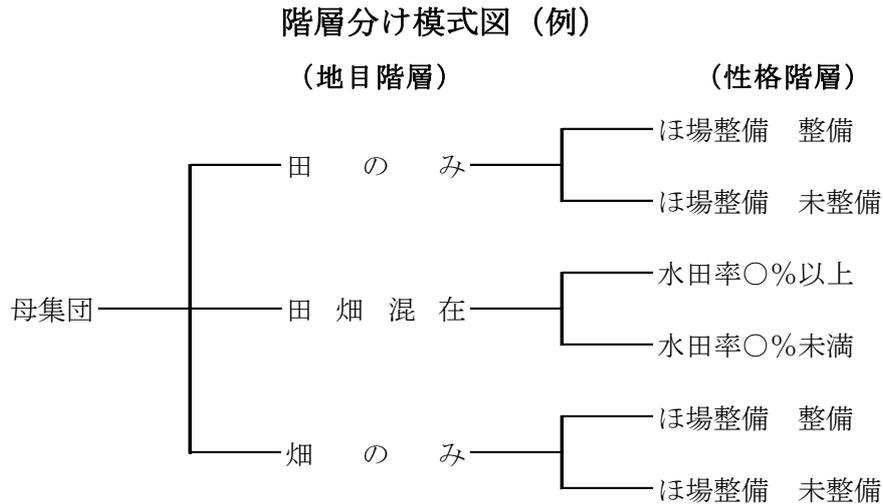
空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地の筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）について、面積調査用の地理情報システムにより、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。）の集まりを母集団（全国約290万単位区）としている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報を補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に

基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。



ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の水稻作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稻が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに作付けの状況及びその範囲を確認する。

オ 推定

面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況水稻作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）田台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稻作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 作柄概況調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10 a 当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ 10a 当たり玄米重の算定

(ア) 作柄概況調査(調査期日において収穫期を迎えていないもの)

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、1穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データ等を基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10a 当たり玄米重を予測する。

(イ) 収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えているもの)

各作況標本筆について、一定株数(1㎡分×3か所の株数)の稲を刈取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、10a 当たり玄米重を決定する。

カ 10a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10a 当たり玄米重の平均を基に、都道府県別の10a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆(10a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。)の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

6 実績精度

作付面積調査の対地標本実測調査における水稲作付面積に係る調査結果(全国)の実績精度を標準誤差率(標本誤差の推定値÷推定値×100)により示すと、次のとおりである。

区分	標準誤差率(%)
水稲作付面積	0.34

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和2年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅							
都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅
北海道	1.90mm	東 京	1.80mm	滋 賀	1.90mm	香 川	1.80mm
青 森	1.90mm	神奈川	1.80mm	京 都	1.85mm	愛 媛	1.85mm
岩 手	1.90mm	新 潟	1.85mm	大 阪	1.80mm	高 知	1.80mm
宮 城	1.90mm	富 山	1.90mm	兵 庫	1.85mm	福 岡	1.85mm
秋 田	1.90mm	石 川	1.85mm	奈 良	1.80mm	佐 賀	1.85mm
山 形	1.90mm	福 井	1.90mm	和歌山	1.80mm	長 崎	1.80mm
福 島	1.85mm	山 梨	1.80mm	鳥 取	1.85mm	熊 本	1.85mm
茨 城	1.85mm	長 野	1.85mm	島 根	1.90mm	大 分	1.80mm
栃 木	1.85mm	岐 阜	1.80mm	岡 山	1.85mm	宮 崎	1.80mm
群 馬	1.80mm	静 岡	1.80mm	広 島	1.85mm	鹿 児 島	1.80mm
埼 玉	1.80mm	愛 知	1.85mm	山 口	1.85mm	沖 縄	1.80mm
千 葉	1.80mm	三 重	1.85mm	徳 島	1.80mm		

- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

8 その他

- (1) この資料のうち、作付面積の数値は、概数値である。
確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和3年2月予定）するとともに、その後刊行する「令和2年耕地及び作付面積統計」に掲載する。
なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホームページでお知らせする。
- (2) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

- ・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

FAX： 03-5511-8771

- ・作柄概況に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>